

米の支出

- 家計調査結果より -

日本では、旧暦5月を皐月（さつき）と呼び、現在では新暦5月の別名としても用いています。この「さつき」とは、早苗（稲）を植える月であることから「早苗月（さなへつき）」と呼んでいたものが短くなったとする説と、「さ」という言葉自体に田植えの意味があることから、「さつき」だけで「田植えの月」になるとする説があるようです。そこで今回は、米の支出について家計調査の結果からみてみましょう。

減少傾向にある米の支出

1世帯当たり年間の米の購入数量の推移をみると、平成29年の米の購入数量は、30年前の昭和62年の半分を下回っています。

また、食料に占める米の支出金額の割合についても、平成29年は昭和62年の約三分の一となっており、どちらも緩やかな減少傾向にあります（図1）。

素材から調理食品・外食へ、米からパンへ

次に、昭和62年と平成29年のそれぞれの食料の項目別に支出金額の構成比をみてみましょう。

昭和62年は、穀類や魚介類、野菜・海藻などの調理前の素材^注となる食品の支出が多くなっていますが、平成29年をみると、素材の割合は減少し、調理食品や外食の割合が増加しています。また、穀類の内訳では、米からパンにシフトしていることがうかがえます（図2）。

注）ここでは、穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物を合計したものを素材としています。

米の年間支出金額の1位は新潟市

最後に、1世帯当たりの米の年間支出金額について都道府県庁所在地及び政令指定都市別にみてみましょう。支出金額が最も多いのは新潟市で、30,083円と全国平均（23,395円）の約1.3倍になっています（図3）。

図1 1世帯当たり年間の米の購入数量及び食料に占める米の支出金額の割合の推移（昭和62(1987)年～平成29(2017)年 二人以上の世帯）

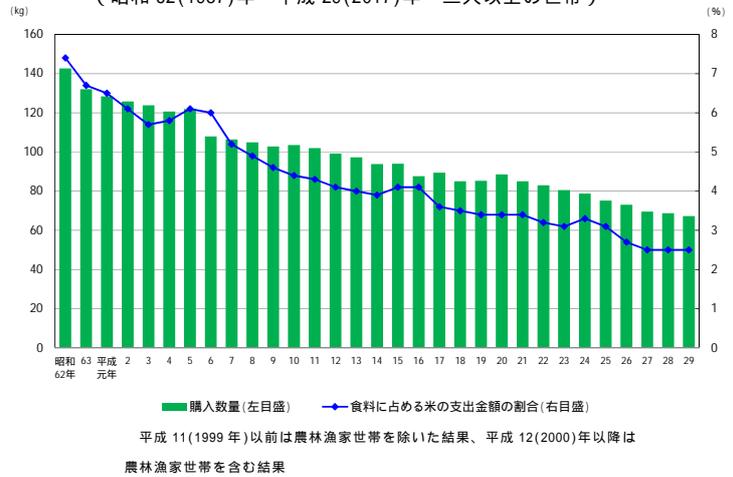


図2 食料に占める項目別構成比の変化（昭和62(1987)年、平成29(2017)年 二人以上の世帯）

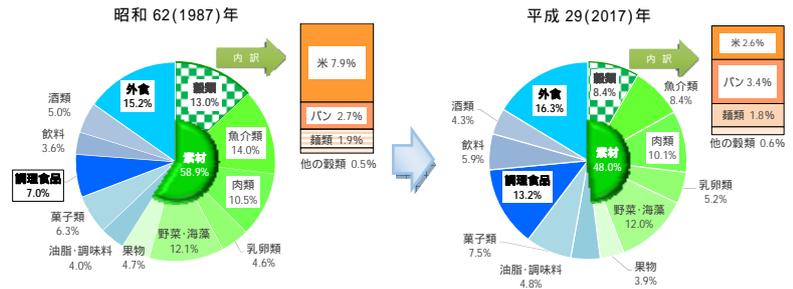


図3 米の1世帯当たり年間支出金額の都道府県庁所在地及び政令指定都市ランキング（平成27(2015)年～29(2017)年平均）

